

完成できないスーパー堤防に代わる新工法（アーマー・レビー）の提案と、この提案を真摯に受け止め委員会での真剣な検討を求める陳情

（建設委員会付託）

受理番号 第 94 号

受理年月日 平成 29 年 5 月 11 日

付託年月日 平成 29 年 6 月 15 日

陳情者
.

陳情原文 スーパー堤防構想の持っている矛盾が大きくなってきています。それは、整備スケジュールを示せない国交省(まちづくり事業がないと進められない)。

該当住民を強制的に追い立て、問題を引き起こしている。巨額の公費が必要。

整備に何百年もかかり、喫緊の水害対策に後手を踏む(鬼怒川決壊の被害)、等々です。そしてもう一つは、自民党復権後で 873 km が 120 km に縮小、江戸川右岸では、河口から 22 km 地点までの強固な下流部分だけの事業計画となり、最も脆弱な上流部分はそのままです。江戸川区は事業を進めるにあたり、「毎秒 / 7,000 t」の水が流れると市川橋辺りが危険だ、と言ってスーパー堤防事業を進めてきました。しかし、野田にある国交省関東地方整備局江戸川河川事務所では、仮に 5,000 t もの水が流れたら上流域のどこかで既に氾濫している、と言っています。このことからこの事業は意味がなく、既に破綻しているのです。

このように、住民の犠牲の上にたち莫大な費用と時間をかけ、効果も算出できないスーパー堤防は中止して、住民の犠牲を伴わない、しかも安価な「アーマー・レビー」工法の採用による堤防強化の検討を求めます。浸透水対策として法面の連節ブロックと、法尻からの崩落を防ぐ重しを入れた「ふとんかご」の併用を提案します。これら提案の工法とスーパー堤防事業の費用対効果と安全性を比較して検討してください。そしてなにより、住民に対する安心を提供する行政の責務を考慮した立場での真剣な検討を求めます。

つきましては、下記のとおり陳情します。

記

スーパー堤防に代わる新工法（アーマー・レビー）の採用検討と提案を真摯に受け止めていただき、真剣な検討を求めます。